

平成 28 年度 大学院工芸科学研究科博士前期課程 学位記授与式
学長告辞

今日の佳き日、目出度く修了式を迎えられた皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心からお祝い申し上げます。また、皆さんをこれまで、支え、育ててこられたご家族の皆様をはじめ、本日駆けつけていただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申し上げたいと思います。私たち京都工芸繊維大学も今まさに、君たち修了生とともに、世界に羽ばたき、飛翔しようとしています。

京都工芸繊維大学は、強い個性を有する工科系の国立大学として近年注目を集め、急速に社会的な認知度を上げています。2013 年には文部科学省「知の拠点整備事業COC」、つづいて2014年には「スーパーグローバル大学創生支援事業SGU」、さらに2015年にはいわゆる「COC+事業」に採択されました。

また、リクルート進学総研が高校生を対象に行った「進学ブランド力調査」では、ここ数年来、志願度も上昇し、日経キャリアが行った全上場企業対象の「企業の人事対象者から見た大学のイメージ調査」、つまり就職力ランキングにおいて本学卒業生の実力は、日本の国公立大学800校中総合14位、独創性において第9位の評価を得ています。朝日新聞の調査では、本学の学生の勉強時間の長さは第4位であり、よく勉強していることが示されています。

また、2012 年全日本学生フォーミュラ大会において総合優勝の栄誉に輝いたのに続いて、2013 年と2014 年においても総合5位の成績を収め、2015 年には総合準優勝に輝き、本学学生の技術力の高さが示されました。さらに本学の教育方法は、日本機械学会教育賞、日本建築学会教育賞を受賞したことなどにみられるように、実践的な教育方法が学会や社会からも高く評価されています。我々の行っている大学教育の成果が社会から認められ、高校生からも企業の人事担当者からも高い評価が得られていることは大変喜ばしいことです。

2012年には、本学は文部科学省から機能強化事業を推進する大学に抜擢されています。ユニット招致と呼ばれる方法でハーバードやスタンフォード、あるいはETHやRCAといった海外の有力大学から講座やグループを招聘し、共同研究や共同教育を行っています。一方、タイや英国にオフィスを開設し、海外インターンシップや交換留学の拠点として活用していきます。タイのチェンマイ大学とジョイント・ディグリー制度によって新しい大学院専攻を開設し、外国人学生を本学の大学院生として受け入れ、共同教育を実施します。バンコクではキングモンクート大学産学連携センターの中に共同研究の拠点を開設する計画です。日本国内においても、京丹後市サテライトキャンパスや綾部地域連携室が活発に活動していますが、福知山に北京都分校を開設し、東京青山にも、東京オフィスを開設しました。

こうした大学活動の盛り上がりと活性化を好機とし、私たちは世界に冠たる大学になろうとしています。修了生の皆さんも社会に出てからも、海外で活躍できる人材、現場でリーダーシップを発揮できる人材、我々が「テックリーダー」と呼ぶ人材として大いに活躍していただきたいと考えています。

今日の卒業式にあたり、京都工芸繊維大学が掲げる理念を踏まえ、「科学と芸術」、「知と美と技」について、また職場のみならず社会におけるリーダーシップについて、学術文化の領域における知性と反知性という立場について、今一度、当事者の立場から深く考えていただきたいと思います。

京都工芸繊維大学の教育研究の柱は「科学と芸術」ですが、科学と芸術をともに究め、深いレベルで橋渡しすることは大変難しいことです。芸術的な営みは、個人的な精神活動とみなされてきましたが、芸術を個人的な趣味の領域から解き放ち、時代を切り開く社会的な力に変換していくためには、科学的思考が有効であると考えます。一方、科学は事実に基づく客観的思考を旨とし、主観的な判断を伴わない営為のように言われることもあります。実際には、感覚や直観的判断、そしてその先にある感動を求めて日々の活動をおこなっていることに留意すべきです。

一般に科学的な成果は、個人の好みや主観によって左右されるのではなく、誰にとっても了解可能であり、説明可能な論証能力をもった普遍的なステートメントでなければならないとされています。大学における学問は、主観的な一人ごとを超えて、不特定多数の人に認められるような普遍性を獲得することが大切です。

単純化して言えば、科学的分野では、普遍的で唯一の真理を求めて研究活動を行っていくのに対して、芸術分野や文系の学問分野では、どうでしょうか。文系の学問領域では数式による記述にはなじまない主題、数量化し得ない対象にこそ関心が向けられています。数量的な取り扱いを拒否し、数量化にあくまで抵抗する対象とは、何か。それはもちろん人間であり、人です。人間あるいは人間が作り出した文化事象、社会現象、歴史などは数式に還元されない多面的な対象であり、実験や再現性にもなじまない事象です。

芸術活動や文系の学問では、唯一つの真理ということを前提にした研究活動をすることはできません。非常に重要で理解しがたいことですが、Aにとっての真理とBにとっての真理は両立することを前提に、時代の制約の中での歴史的事象、地理的制約、といった立体的な視点から文化的事象を比較することが研究活動の前提とされるのです。

皆さんが活躍される人間社会は、複数の価値観が併存する多様性が特徴であり、単一の真理を求める思考法からすれば、時には曖昧であり、時には揺れ動き、明晰な結果が得られないこともあります。しかし人間社会の多様性と豊かさを単純な枠組みに押し込めるような短絡した思考は慎むべきであります。実証性や客観性を軽んじ、自分の都合の良いように世界を解釈し、社会の現実を矮小化し、歪めるような反知性主義的風潮には十分に留意していただきたいと思います。

多様な価値観が併存する人間社会におけるリーダーシップとはどのようなモノであり、我々が求める「テックリーダー」とはどのような人物であるかを考えていただきたいと思います。

1964 年 5 月、前の東京オリンピックの年、日本社会に関して興味深い論考が発表されました。中根千枝の縦社会論です。

引用しますと、「上に立つ者、親分は、むしろ天才でない方がよい。彼自身頭が切れすぎたり、器用で仕事ができすぎるということは、下の者、子分にとって彼らの存在理由を減少することになり、かえって疎まれる結果となる。子分は親分に依存すると同時に、親分が子分に依存することを常に望んでいる。親分のすること、考えることはすべて子分に（彼らなりに）理解され納得される必要がある。天才的な能力よりも、人間に対する理解力、包容力を持つということが、なにより日本社会におけるリーダーの資格である。どんなに権力、能力、経済力をもった者でも子分を性格的に把握し、それによって彼らが密着し、「タテ」の関係につながらない限り、リーダーにはなりえないのである。集団の機能力はともすれば親分自身の能力によるものよりも、むしろすぐれた能力をもつ子分を人格的にひきつけ、いかにうまく集団を統合し、その全能力を発揮させるかというところにある。実際、大親分といわれる人は必ず人間的に非常な魅力をもっているものである。子分が動くのは、親分の命令自体ではなく、この人間的な直接肌に感じられるところの人間的な魅力のためである。」

こうした親分と子分の関係は、明治以降の急速な近代化を追求してきた日本社会において、大きな役割を果たしてきました。しかし今日、本学が求めるテックリーダーとは、世界のグローバルな現場において、具体的な課題解決能力を発揮できる人物、チームの信頼に答えて進むべき方向を示すことができる人物のことです。自らの能力によってチームの信頼を得、成果によって尊敬を得られる人物のことです。そして自らの決断に対して責任をとることが出来る人物のことであり、結果責任を部下や組織に転嫁することはあってはなりません。常に未来を見つめ、世界を知り、大胆な決断と結果責任を引き受けることの出来る人物を目指していただきたいと思います。

京都工芸繊維大学は、京都高等工芸学校および京都蚕業講習所に端を発する１１０余年の歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。私たちはこの栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性にもとづく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、修了生の皆さん方とともに教育研究の成果を世界に発信していきたいと考えます。

皆さん方が、さらなる高みをめざして飛躍されることを祈念してお祝いの言葉といたします。

平成 28 年 3 月 25 日
京都工芸繊維大学長
古山正雄